



やわらかに

和して

同ぜず

長谷川 權 (俳人)

×
中村 桂子

調和の世界を築きあげる

中村 先日、選句について、俳句は読むものでなく、パッと見た文字の印象でわかるので六千句を二時間で見ると書かれていてちょっとびっくり。

長谷川 その印象が本当に大事なんです。

中村 漢字仮名まじりのおかげもありますでしょう。斜め読みもできる。これって大発明だと思うのです。

長谷川 その通りです。仮名はどのように生まれたのかと考えると、たとえば「まつ」という掛詞は、松の木とも、あなたを待つともなります。歌は、私たちの祖先にとって文字さえ変えてしまうほどに大事なものであったのだらうと思います。大和言葉は本来、文字はありませんでしたから、変幻自在にアルファベ

長谷川 權 (はせがわ・かい)
一九五四年熊本県生まれ。東京大学法
学部卒業。読売新聞記者を経て、俳句
に専念。「朝日俳壇」選者。俳句結社
「古志」前主宰、東海大学特任教授。
『俳句の宇宙』で第十二回サントリー学
芸賞受賞。句集『虚空』で第五十四回
読売文学賞受賞。『奥の細道』をよむ
『和の思想』『文学部で読む日本国憲法』
『俳句の誕生』ほか著書多数。